

# 日本光学会 平成7年度年次報告

## 1. 総 括

日本光学会前幹事長 朝倉利光



日本光学会は、応用物理学会の中の最大の分科会である。分科会の名称は、最初は光学懇話会であったが、1989年に日本光学会に改称した。したがって、学会となってから7年が経過したが、この期間は名実共に学会となるための基本的な二つの活動の確立に全力を注いできた。すなわち、出版活動と会議開催活動である。

出版活動については、従来から発行されてきた日本語の学術誌「光学」に加えて、1994年末から英語による国際学術誌「OPTICAL REVIEW」が発刊された。前者の「光学」は編集委員会の尽力により、レベルの高い学術誌として確立されて現在に至っているが、1996年からは体裁を一新し、かつ内容を充実した形として登場してきている。日本から世界へ向けての光学分野の学術発信源として登場してきた「OPTICAL REVIEW」の第2巻6冊が順調に発行され、今後の発展への期待がますます大きくなってきた。本誌の発展は、投稿論文の数と質に依存するところが大きい。特に日本における光学関連分野の研究の活発な活動を考えた場合、本誌に対する深い関心と質の高い投稿論文数の増加を切に期待したい。このような本誌に対する期待にもかかわらず、本誌出版に伴う問題点の一つは財政的基盤が確立されるに至っていないことである。この問題点の解決は、機関購読数のいかににかかっており、それだけに多くの機関での購読をお願いしたい。

次に会議開催活動については、4年前から日本光学会独自の学術講演会として応用物理学会秋季講演会の前後に光学連合シンポジウムが計画・実行されてきた。第4回目は、8月末に行われた応用物理学会講演会から切り離して、9月20～22日の3日間、日本女子大学目白キャンパスにおいて光学連合シンポジウム東京'95が開催された。参加者数が600名、講演数が223件であり、過去4回の開催を通して、光学連合シンポジウムはまさに

日本光学会の独自の講演会として確立されてきた感がある。内容も充実され、一般講演と併せて特別講演1件、最近の課題についてのスペシャルセッション3件、研究グループの紹介コーナーの設置などがあり多彩であった。1996年度の光学連合シンポジウムは、秋季応用物理学会学術講演会と連動して、9月6、7日に九州大学箱崎地区において開催することが決定している。

以上のように、日本光学会の基本的な二大活動が徐々に確立されてきており、学会としての存在意義が大きく展開されつつある。これら新しい活動の始まりとは反対に、長年行われてきたサマーセミナーの実施が種々議論され、結論として光学連合シンポジウムの内容を充実することに努力することで、サマーセミナーは1995年から当分の間中止することを決定した。現在は、サマーセミナーにかわる新しい形のセミナーを模索する議論が行われている。

サマーセミナー以外は、長年にわたって行われてきた種々の活動は例年どおり活発に行われた。第20回光学シンポジウムが、「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心に」をテーマに6月22、23日に東大生産研で行われた。参加者は232名で盛況であった。特に今回は20回を記念して、3件の招待講演が行われた。第22回冬期講習会「ホログラムと回折型光学素子—基礎理論から産業応用まで—」が本年1月25、26日に東大生産研において115名の参加者のもとで開催された。これら光学シンポジウムと冬期講習会は日本光学会ならではの内容をもっており、その評価は高く、いずれも予想以上の参加者を得て成功裡に終わっている。地方講演会としては、11月に名古屋講演会と関西講演会、12月には初めて九州講演会を開催した。また、共催として10月にカラーフォーラムジャパン'95、12月に第26回画像工学コンファレンスが行われ、特に後者は日本光学会が担当学会として計画・実施した。

学会には研究グループとして、視覚、ホログラフィックディスプレイ、微小光学、光コンピューティング、イメージサイエンス、位相共役・光波ミキシング、光設計、コンテナポラリーオブティクス、近接場光学の9グループがあり、会合や出版などを中心とした活発な活動が展開されてきた。特に、光学連合シンポジウム東京'95において研究グループの紹介コーナーが設置され、

それぞれ独自の研究活動の紹介があり、研究グループ活動のすばらしい側面が披露された。

日本光学会は、研究業績に対して二つの賞を設定している。一つは若手の光学研究者の育成と学会学術誌「光学」と「OPTICAL REVIEW」の発展を目的に設定された「日本光学会奨励賞」であり、4回目にあたる1995年度はオリンパス光学工業株式会社の永岡利之氏と大阪大学工学部（現在は千葉大学工学部）の津村徳道氏が受賞した。もう一つは光学の分野における優秀論文の著者に贈られる応用物理学会「光学論文賞」であり、36回目にあたる1995年度は大阪大学工学部の井上康志氏と東芝研究開発センターの本宮佳典氏が受賞した。なお、1995年度からの光学論文賞の賞牌として、株式会社ニコンのご厚意により故久保田広先生（本賞設立の動機とされた）の映像の入ったクリスタルガラスが贈られることになった。

日本光学会の種々の活動は、幹事会、常任幹事会、「光学」「OPTICAL REVIEW」編集委員会、奨励賞および光学論文賞選考委員会、各種会合の委員会などが中心となっている。これらの委員会を中心に、1996年度の活動もより充実した形で計画が作成されている。先に述べたごとく、学会の基本となる二つの活動である出版活動と会議開催活動がほぼ確立されつつある状況にあり、学会の存在意義が前よりより増大してきたと思われる。今後は、これら二つの活動を確固たる基盤で支えて行くための絶えざる努力が要求される。併せて、今後の学会のますますの発展のために、活動分野の拡大と会員の増大を進める事業が今後の課題であろう。

## 2. 編 集

「光 学」

編集委員長 梅垣 真祐

「OPTICAL REVIEW」創刊が原因であるのか、「光学」自身の魅力のなさが原因であるのか、ここ数年、投稿原著論文の数がかなりの割合で減少してきた。ちなみに、今年入ったの投稿数がこの3か月でみると既に16件と増加の兆しがあるとはいえ、1993～1995年の投稿数は順に57、47、34件となっている。「光の時代」と宣伝される来世紀に向けて、その中核となるべき日本光学会に対する注目度を表す指標と見れば、これは由々しき問題である。「OPTICAL REVIEW」発刊に伴い、「光学」発行のための経費削減も謳われ、1993～1995の

年間総ページ数も808、794、752ページと暫減させてきた。しかし、会員にとってみれば唯一の学会との接点である「光学」を充実させ、「光学」を魅力あるものとして、むしろ会員数の拡大を企図しなければならないというのが本当であろう。

第1弾として、長年続けてきた「光学」の誌面を第25巻第1号から刷新した。少し暗い感じのした表紙を明るくし、編集委員名一覧を最後にもっていった目次をすっきりさせた。その他、各項目へのヘッディングの形式を変えるなど、表面的なことではあるが気分の一掃を図った。また、第3号からは「OPTICAL REVIEW」の目次掲載も始めた。

これが重要であるが、第2弾は内容の刷新である。「巻頭言」から始まり、依頼論文としての「解説」、「最近の技術から」、投稿論文としての「研究」、「研究速報」、「技術報告」などの他、「さろん」、「書評」、「文献抄録」より構成されるスタイルも長年続けられてきた。このスタイルの大幅な改革、企画方法の変革などが本年度の課題である。会員、読者のご意見、ご忠告を大いに編集委員会、編集局までお寄せいただきたい。

## 「OPTICAL REVIEW」

編集委員長 伊藤 良一

1994年に創刊したOPTICAL REVIEWは本格的な活動にはいった。隔月に出版、年間6号、483ページと実質的な初年度としてはまず順調な滑り出しといえよう。

Vol.2(1995)に掲載された論文数は合計101編であった。内訳は、letter 18編、regular paper 82編、short note 1編であった。これを分野別に分類すると、多い順に、Information optics(25)、Optical systems and technologies(17)、Nonlinear optics(15)、General and physical optics(11)、Photonics and optoelectronics(10)、Environmental, biological, and space optics(10)、Lasers(4)、Vision(4)、Quantum optics and spectroscopy(2)、Optical materials and manufacturing technologies(2)、Far infrared and shortwavelength optics(1)であった。光学の各分野を網羅しているが、研究の活発さから見て、Photonics and optoelectronicsの論文がもっとあってよいと思う。

1995年の投稿数は98編、うち国内81編、海外17編であった。海外に少しずつ認知されつつあるが、国内の投稿数が年間100編にも届かないのは、日本の光学分野

のレベルから見て少なすぎるのではなからうか。

投稿と機関購読の勧誘のために、サンプル号を送付した(海外492件, 国内958件)。このほか国内向けに2回(計1200件)ダイレクトメールを発送した。さらに国内外の講演会, 国際会議等でパンフレットを配布した。また, OPTICAL REVIEWは有力なデータベース機関のINSPEC(英国)およびISI(米国)に採択された。Optical Society of AmericaがインターネットでOPTICAL REVIEWの目次を紹介してくれることになった(URL <http://www.osa.org/osapage/pubs/opticalr.html>)。日本光学会もインターネット上での情報発信を急がなければならない。

これからは, 論文投稿数と国内外の機関購読数を増やすことに特に力を入れたい。会員諸氏の雑誌として全面的なご支援を切に期待する。

### 3. 研究グループの活動

#### (1) 視覚研究グループ

日本視覚学会と共催で冬期, 夏期2回の研究会を開催した。参加者数はそれぞれ177, 144名であった。

#### (2) ホログラフィックディスプレイ研究グループ

ホログラフィックディスプレイ研究グループ-Hodicは本年度も4回の研究会, 公募研究会, ホログラフイー展開催, 会誌Hodic Circularの発行などを行った。本年度よりホログラム関連に非常に熱心な活動を行い, 志半ばで他界された鈴木正根氏を記念した, 鈴木正根賞を設立した。本年度は今健次氏と中村郁夫氏がそれぞれ技術部門, 芸術部門の賞を受賞し, 5月26日に開催された研究会において, 故鈴木正根氏の奥様を招いて授賞式典を行った。

#### (3) 微小光学研究グループ

95年度は計画どおり, 4回の研究会(第55~58回, 参加者数80, 98, 79, 84名)と国際会議(MOC '95, 参加者205名, 発表件数81件)を開催した。

また, 機関誌MICROOPTICS NEWS Vol.13, No.1~No.4および「微小光学ハンドブック」を発行した。

#### (4) 光コンピューティング研究グループ

今年度から研究グループ名を改称した。会員数は147名である。6回の研究会を行い, うち1回はワークショップとして行った。また, 第68回は春の応用物理学会の会場でインフォーマルミーティングとして行った。第69回は合宿として行った。また, 第70回は1996年4月に開催されるOC '96の下準備をかねて, 実際の会場

で行った。機関誌「OPCOM NEWS」1~3号を発行した。

#### (5) イメージ・サイエンス研究グループ

会員数は126名, インターネットによる電子メール会誌ISG NewsletterとWWWページによる情報発信・交換と光学連合シンポジウムでの研究発表を中心に活動している。ISG Newsletterは6号から11号までを発行し, インターネット上での質問箱の設定, フォーラムの開催を行った。WWWページでは平成7年9月よりISGの紹介, 過去のNewsletter, ISG関係のWWWページへのリンク, 入会申込みフォームなどを提供している。

#### (6) 位相共役・光波ミキシング研究グループ

会員数は143名である。第5回, 第6回の研究会を開催し, それぞれ52, 34名の参加者があった。予稿集を会誌「位相共役・光波ミキシング」第3巻1, 2号として発行した。また, 第42回応用物理学関係連合講演会および光学連合シンポジウム東京 '95会場においてインフォーマルミーティングを行った。

#### (7) 光設計研究グループ

会員数199名, 賛助会員8社が参加している。第42回応用物理学関係連合講演会でシンポジウム「光設計の新しい可能性」を企画した。3回の研究会(第6~8回, 参加者82, 88, 76名)を開催した。また, 会誌「OPTICS DESIGN」No.6~No.8を発行した。

#### (8) コンテンポラリーオプティクス研究グループ

1995年3月3日に第4回研究会を「医用画像情報の基礎と最新の話題」という題目で電気通信大学にて開催した(参加者数50名)。また, 同年9月20日に第2回実行委員会を開催し, 今後のあり方などについて議論した。現在の会員数は104名である。

#### (9) 近接場光学研究グループ

研究会を2回行った(予稿集を発行)。発表件数は各々13, 16(内招待講演1, 3), 参加者は82, 90名であった。さらに光学連合シンポジウム東京 '95会場においてインフォーマルミーティング(参加者50名)を行い, 理論に関する討論会を行った。また, 外国の第一線の研究者による特別講演会を2回行ったが, 約80名収容できる会場がほぼ満席となった。本グループの活動はまだ2年目であるが, このようにきわめて活発になっている。

## 4. 会 計

前会計幹事 小団扇 平

平成7年度日本光学会の主な事業について、その決算内容の要点を以下に述べる。

まず講習会・講演会事業では、収入は昨年に比べ増加した。各講習会・講演会ともタイムリーで充実した企画により多数の参加者を集めることができたためといえる。支出面ではメールの活用により会議の回数を切り詰めた。また、会計的に負担の大きかったサマーセミナーを取りやめ、その一部機能を光学連合シンポジウムに吸収した。

このような努力の結果、平成7年度の収支は、前年度比300%ほどの黒字を確保することができた。特に、光学連合シンポジウムが黒字を確保できたことは大きな成果であった。

次に、出版事業では「光学」誌のページ数見直しや会議費等の削減を行い経費圧縮に努めることにより、支出を前年度比12%程削減できた。「OPTICAL REVIEW」誌は、Vol.2を予定どおり発行することができた。応用物理学会からの初期出版事業補助費、企業からの初期援助金を含め、わずかながらの黒字を確保している状態なので、補助費等がなくても、この事業を単独で

黒字の出せる事業にすることが課題である。

以上、まとめると収支決算全体では次期繰越収支差額の数字としては2,014万円と健全な数字にみえるが、補助費等を除外すると現実には厳しく、自力での黒字体質作りを急がねばならない。

平成8年度予算では、多数の方に参加して頂ける魅力ある講習会・講演会の企画立案となお一層の経費削減の努力を各事業担当幹事の方をお願いしている。また、「光学」誌のVol.25, No.1より表紙、内容を一新し、会員の皆様へより充実した会誌をお届けできるよう努力している。その一方、健全な財政基盤の確保に向け、会の運営面での経費削減等の努力をしていくが、収入面では会員数や特別会員の増加を図る必要がある。会員の皆様には「OPTICAL REVIEW」誌、「光学」誌への積極的な投稿、身近な方々への「OPTICAL REVIEW」の機関購読申込み、日本光学会入会の勧誘をお願い申しあげたい。

## 5. 日本光学会 WWW について

平成8(1996)年4月より日本光学会のWWWホームページを開設した。URLは以下のとおりである。

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/osj-ap/>

## 平成7年度事業報告／平成8年度事業計画

|                  | 平成7年度事業報告   | 平成8年度事業計画   |
|------------------|---|---|
| 会誌の発行            | 「光学」Vol. 24, No. 1～No. 12<br>「OPTICAL REVIEW」Vol. 2, No. 1～No. 6  | 「光学」Vol. 25, No. 1～No. 12<br>「OPTICAL REVIEW」Vol. 3, No. 1～No. 6  |
| 授賞               | 光学論文賞<br>・井上康志（大阪大学工学部）<br>・本宮佳典（東芝・情報通信システム研）<br>日本光学会奨励賞<br>・永岡利之（オリンパス光学）<br>・津村徳道（大阪大学工学部）  | 光学論文賞<br><br>日本光学会奨励賞   |
| 講演会、講習会          | 第21回冬期講習会「コヒーレンスの不思議—光物理から応用まで—」<br>1月26～27日<br>82名   | 第22回冬期講習会「ホログラムと回折型光学素子—基礎理論から産業応用まで—」<br>1月25～26日  |
| 主催/共催（研究グループは除く） | 第28回光学五学会関西支部連合講演会「マルチメディア時代の画像表現—フラットパネルディスプレイの将来—」<br>4月21日<br>71名  | 第29回光学五学会関西支部連合講演会「3Dイメージの創造—立体表現と視覚心理—」<br>2月2日  |
|                  | 第20回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心にして」<br>6月22～23日<br>232名   | 第21回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心にして」<br>6月20～21日   |
|                  | 光学連合シンポジウム<br>9月20～22日<br>600名  | 光学連合シンポジウム<br>9月6～7日  |
|                  | 東京'95（JAPAN OPTICS '95）<br>10月24～26日<br>264名  | 福岡 '96（JAPAN OPTICS '96）<br>カラーフォーラム '96  |
|                  | カラーフォーラム JAPAN '95<br>10月24～26日<br>264名   |   |
|                  | 名古屋講演会<br>11月1日<br>58名  | 名古屋講演会  |
|                  | 関西講演会<br>11月15日<br>35名  | 関西講演会   |
|                  | 福岡講演会<br>12月15日<br>55名  | 仙台講演会   |
|                  | 第26回画像工学コンファレンス<br>12月6日～8日<br>280名   | 第27回画像工学コンファレンス   |
| 研究グループ           | 視覚、ホログラフィックディスプレイ、微小光学、光コンピューティング、イメージ・サイエンス、位相共役・光波ミキシング、光設計、コンテンポラリーオプティクス、近接場光学  | 視覚、ホログラフィックディスプレイ、微小光学、光コンピューティング、イメージ・サイエンス、位相共役・光波ミキシング、光設計、コンテンポラリーオプティクス、近接場光学  |
| 幹事会、委員会          | 幹事会<br>3回<br>常任幹事会<br>3回<br>「光学」編集委員会<br>6回<br>文献抄録委員会<br>6回<br>文献抄録委員会（関西）<br>3回<br>「OPTICAL REVIEW」編集委員会<br>1回<br>「OPTICAL REVIEW」運営委員会<br>2回 | 幹事会<br>3回<br>常任幹事会<br>3回<br>「光学」編集委員会<br>6回<br>文献抄録委員会<br>6回<br>文献抄録委員会（関西）<br>3回<br>「OPTICAL REVIEW」編集委員会<br>3回<br>「OPTICAL REVIEW」運営委員会<br>3回 |
| 会員数              | 平成7年12月31日現在（（ ）内は昨年度）<br>A会員 781名 (803名)<br>B会員 1171名 (1195名)<br>特別会員 162口 (123口)<br>賛助会員 84社148口 (79社143口)                                    |   |

## 平成7年度日本光学会講演会，講習会等一覧表

主催/共催（研究グループを含む）合計 41 件開催

| 開催日      | 主催/共催                   | 名 称  | 備考（場所，参加人数）                 |
|----------|-------------------------|--|-----------------------------|
| 平成7年     |                         |  |                             |
| 1/26-27  | 日本光学会                   | 第21回冬期講習会「コヒーレンスの不思議—光物理から応用まで—」                     | 東京大学生産技術研究所（港区），参加者82名      |
| 25-27    | 視覚/日本視覚学会               | 冬期視覚研究会  | 工学院大学（新宿区），177名             |
| 2/3      | 光コンピューティング              | 第67回研究会  | イメージ情報科学研究所                 |
| 3/3      | コンテンツポラリティー・オブティックス     | 第4回研究会「医用画像情報の基礎と最新の話」                               | 電気通信大学（調布市），50名             |
| 3        | ホログラフィックディスプレイ          | 平成6年度第4回研究会「新しいホログラフィック・マテリアル」                       | 千葉大学（千葉市稲毛区）                |
| 8        | 微小光学                    | 第55回研究会「マルチメディア」                                     | (株)フジクラ R&D センター（江東区木場），80名 |
| 14       | 近接場光学                   | 特別講演 Dr. D. Pohl (IBM Zurich)                        | 大阪大学工学部（吹田市）                |
| 29       | 光コンピューティング              | 第68回研究会  | 東海大学（平塚市），23名               |
| 30       | 光設計                     | 第42回応用物理学関係連合講演会シンポジウム「光設計の新しい可能性」                   | 東海大学（平塚市）                   |
| 30       | 位相共役・光波ミキシング，光コンピューティング | 第42回応用物理学関係連合講演会 IM                                  | 東海大学（平塚市），23名               |
| 4/21     | 日本光学会                   | 第28回光学五学会関西支部連合講演会「マルチメディア時代の画像表現—フラットパネルディスプレイの将来—」 | 大阪三田出版会大会議室（大阪市北区），71名      |
| 5/17     | 微小光学                    | 第56回研究会「光インタコネクト」                                    | 慶応義塾大学三田校舎（港区），98名          |
| 19       | 光設計                     | 第6回研究会「目の光学—生体に学ぶ」                                   | 早稲田大学理工学部（新宿区），82名          |
| 26       | ホログラフィックディスプレイ          | 平成7年度第1回研究会「ホログラフィック・オブティカルエレメントの最近の進展」              | 日本女子大学（文京区）                 |
| 2        | 近接場光学                   | 第3回研究討論会   | 三田出版会ホール（大阪市北区），83名         |
| 22-23    | 日本光学会                   | 第20回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計，製作，評価を中心にして」              | 東京大学生産技術研究所（港区），232名        |
| 7/6-8    | 光コンピューティング              | 第69回研究会（夏期合宿）「光関連キー技術の現状と将来」                         | けんぽ長岡（長岡市），29名              |
| 7        | 位相共役・光波ミキシング            | 第5回研究会   | NTT 武蔵野研究開発センター（武蔵野市），52名   |
| 19       | 微小光学                    | 第57回研究会「最近の光半導体デバイス」                                 | 東京工業大学（目黒区），79名             |
| 7/31-8/2 | 視覚，日本視覚学会               | 夏期視覚研究会  | 石川県青年会館（金沢市），144名           |
| 9/1      | ホログラフィックディスプレイ          | 平成7年度第2回研究会「動画ホログラムの最近の進展」                           | 機械振興会館（港区）                  |

| 開催日     | 主催/共催          | 名 称   | 備考 (場所, 参加人数)                     |
|---------|----------------|---|-----------------------------------|
| 9/20-22 | 日本光学会          | 光学連合シンポジウム東京 '95 (JAPAN OPTICS '95)               | 日本女子大学 (文京区), 600名                |
| 20      | 位相共役・光波ミキシング   | 光学連合シンポジウム 95 IM                                  | 日本女子大学 (文京区)                      |
| 20      | 近接場光学          | 光学連合シンポジウム 95 IM 「近接場光学の理論: その基本的問題と記述方法」         | 日本女子大学 (文京区), 50名                 |
| 26      | 近接場光学          | 特別講演 Prof. M. Paeler (North Carolina State Univ.) | 神奈川サイエンスパーク (川崎市高津区)              |
| 10/1    | 光コンピューティング     | ワークショップ「未来は光だ! 企業と光情報に期待するもの」                     | 東北大学 (仙台市), 19名                   |
| 2       | 光コンピューティング     | 第 70 回研究会   | 仙台国際センター (仙台市), 69名               |
| 7       | 光設計            | 第 7 回研究会「光ディスクの最先端」                               | 学習院大学 (文京区), 88名                  |
| 24-26   | 日本光学会          | カラーフォーラム JAPAN '95                                | 工学院大学 (新宿区)                       |
| 27      | 位相共役・光波ミキシング   | 第 6 回研究会「光波混合および位相共役を用いた計測」                       | 職業能力開発大学校 (相模原市), 34名             |
| 11/1    | 日本光学会          | 名古屋講演会  | 豊田中央研究所 (愛知, 長久手町) 58名            |
| 1-11    | ホログラフィックディスプレイ | 第 3 回大学ホログラフィー展                                   | 名古屋造形芸術大学 D ギャラリー (名古屋市), 参加 12 校 |
| 10      | ホログラフィックディスプレイ | 第 2 回 Hodic 公募講演会                                 | 日本大学駿河台キャンパス                      |
| 15      | 日本光学会          | 関西講演会   | 大阪大学 (吹田市), 35名                   |
| 20      | 近接場光学          | 第 4 回研究討論会  | 東京工業大学 (目黒区)                      |
| 21      | ホログラフィックディスプレイ | 平成 7 年度第 3 回研究会                                   | 神戸芸術工科大学 (神戸市)                    |
| 24      | 微小光学           | 第 58 回研究会「微小光学とマイクロマシニング」                         | 東京大学生産技術研究所 (港区), 84名             |
| 12/1    | 光コンピューティング     | 第 71 回研究会   | 東京大学生産技術研究所 (港区), 18名             |
| 4       | 光設計            | 第 8 回研究会「天文・宇宙光学系」                                | 東京大学生産技術研究所 (港区), 76名             |
| 6-8     | 日本光学会          | 第 26 回画像工学コンファレンス                                 | ABC 会館 (港区), 280名                 |
| 15      | 日本光学会          | 福岡講演会   | 九州大学 (福岡市), 55名                   |

## 平成7年度収支決算

平成7年1月1日～12月31日

〈収入の部〉

| 大科目      | 中科目                      | 金額         | 内 容 (金額記入)  |
|----------|--------------------------|------------|---|
| 会費収入     |                          | 15,550,880 |   |
|          | 会費収入                     | 15,550,880 |   |
| 事業収入     |                          | 35,495,577 |   |
|          | 講習会、講演会収入                | 5,121,955  | サマーセミナー0, 冬期講習会 1,190,000, 光学連合シンポ 3,014,955, その他 917,000 |
|          | 会誌出版事業収入「光学」             | 9,464,100  | 別刷代収入 3,593,100, 広告料収入 5,871,000                          |
|          | 会誌出版事業収入「OPTICAL REVIEW」 | 19,909,522 |   |
|          | その他事業収入                  | 1,000,000  | 一般会計寄付金   |
| 雑収入      |                          | 9,464,100  |   |
|          | 受取利息                     | 155,764    |   |
|          | 雑収入                      | 279,553    | バックナンバー, 資料コピー代   |
| 引当金戻入    |                          | 87,000     |   |
|          | 回収不能引当金戻入                | 87,000     |   |
| 繰入金収入    |                          | 11,094,820 |   |
|          | 分科会賛助会費還元金               | 4,736,000  | 40,000×80%×148口   |
|          | 分科会給与補助                  | 6,358,820  | 学会担当者分  |
| 当期収入合計   |                          | 62,663,594 |   |
| 前記繰越収支差額 |                          | 14,165,684 |   |
| 収入合計     |                          | 76,829,278 |   |

〈支出の部〉

| 大科目                    | 中科目     | 金額         | 内 容 (金額記入)   |
|------------------------|---------|------------|--|
| 講習会、講演会事業費             |         | 4,232,642  |  |
|                        | 臨時雇賃金   | 335,500    | アルバイター手当 サマーセミナー0/冬期講習会 17,000/光学連合シンポジウム 301,500/その他 17,000   |
|                        | 印刷製本費   | 1,790,420  | サマーセミナー0/冬期講習会 208,892/光学連合シンポ 1,335,628/その他 245,900   |
|                        | 諸経費     | 2,106,722  | 会議費 0/42,327/667,248/173,941, 旅費交通費 0/69,960/123,200/51,580, 通信運搬費 0/8,830/122,080/8,234, 消耗品費 0/2,799/73,007/0, 賃借料 0/0/0/0, 諸謝金 0/323,333/230,000/177,638, 雑費 0/1,030/30,279/1,236 |
| 会誌出版事業「光学」             |         | 19,957,641 |  |
|                        | 印刷製本費   | 14,152,077 |  |
|                        | 発送通信費   | 2,228,864  |  |
|                        | 諸経費     | 3,576,700  | 会議費 80,125, 旅費交通費 1,106,910, 通信運搬費 304,290, 消耗品費 0, 賃借料 59,735, 編集委託費 1,233,968, 諸謝金 742,000, 雑費 49,672  |
| 会誌出版事業「OPTICAL REVIEW」 |         | 19,861,490 |  |
|                        | 印刷製本費   | 15,687,453 |  |
|                        | 発送通信費   | 3,114,995  |  |
|                        | 諸経費     | 1,059,042  | 会議費 31,590, 旅費交通費 1,500, 通信運搬費 210,280, 消耗品費 0, 臨時雇賃金 0, 賃借料 40,700, 編集委託費 774,972, 諸謝金 0, 雑費 0  |
| その他事業費                 |         | 1,494,162  |  |
|                        | 助成金支出   | 1,494,162  | 関係先補助金等, 研究グループ  |
| 管理費(含幹事会)              |         | 9,114,327  |  |
|                        | 給与手当    | 6,358,820  | 学会担当者負担  |
|                        | 印刷製本費   | 47,581     | 諸印刷代, 資料コピー代   |
|                        | 賃借料     | 9,200      |  |
|                        | 諸経費     | 1,993,726  | 臨時雇賃金 7,000, 会議費 89,802, 旅費交通費 1,335,980, 消耗品費 35,495, 通信運搬費 314,550, 諸謝金 0, 雑費 197,605, 消費税 566, 振替手数料 12,728   |
|                        | 回収不能引当金 | 705,000    |  |
| 繰入金支出                  |         | 2,033,500  | (他会計への支出額)   |
|                        | 学会事務費   | 2,033,500  | 事務手数料  |
| 予備費                    |         | 0          |  |
| 当期支出合計                 |         | 56,693,762 |  |
| 当期収支差額                 |         | 5,969,832  |  |
| 次期繰越収支差額               |         | 20,135,516 |  |



## 平成8年度収支予算

平成8年1月1日～12月31日

〈収入の部〉

| 大科目      | 中科目                      | 金額         | 内 容 (金額記入)   |
|----------|--------------------------|------------|--|
| 会費収入     |                          | 16,572,000 |  |
|          | 会費収入                     | 22,710,000 | A, B 会員 2,100 名×9,600, 学生会員 50 名×6,000, 特別会員 150 名×15,000  |
|          | 「OPTICAL REVIEW」購読料分補正   | -6,138,000 | A, B 会員 2,100 名×2,880, 学生会員 50 名×1,800<br>「OPTICALREVIEW」国内会員購読料分  |
| 事業収入     |                          | 38,092,000 |  |
|          | 講習会収入                    | 1,000,000  | 冬期講習会 1,000,000  |
|          | 研究会収入                    | 2,800,000  | 光学連合シンポジウム 2,000,000, 光学シンポジウム他 800,000  |
|          | 会誌出版事業収入「光学」             | 8,240,000  | 別刷代収入 2,600,000, 広告料収入 5,640,000   |
|          | 会誌出版事業収入「OPTICAL REVIEW」 | 26,052,000 | 国内会員購読料 6,138,000 A, B 会員と学生会員収入の30%<br>投稿料 6,480,000 720 頁×10,000×0.8<br>図書館購読料 7,570,000 機関 250 件×30,000, 個人 20 件×3,500<br>別刷代その他 864,000<br>出版事業補助 5,000,000 応用物理学会から |
| 雑収入      |                          | 250,000    |  |
|          | 受取利息                     | 200,000    |  |
|          | 雑収入                      | 50,000     |  |
| 繰入金収入    |                          | 10,941,000 |  |
|          | 分科会賛助会費還元金               | 4,608,000  | 40,000×80%×144 名   |
|          | 分科会給与補助                  | 6,333,000  |  |
| 当期収入合計   |                          | 65,855,000 |  |
| 前記繰越収支差額 |                          | 10,000,000 |  |
| 収入合計     |                          | 75,855,000 |  |

〈支出の部〉

| 大科目                    | 中科目     | 金額         | 内 容 (金額記入)   |
|------------------------|---------|------------|--|
| 講習会事業費                 |         | 3,390,000  | 冬期講習会 750,000/光学連合シンポジウム 1,780,000/光学シンポジウム他 860,000   |
|                        | 臨時雇賃金   | 190,000    | アルバイト手当 20,000/150,000/20,000  |
|                        | 印刷製本費   | 1,300,000  | 250,000/800,000/250,000  |
|                        | 諸経費     | 1,900,000  | 旅費交通費 70,000/30,000/210,000, 賃借料 0/150,000/0, 会議費 50,000/550,000/150,000, 通信運搬費 40,000/80,000/20,000, 諸謝費 300,000/0/180,000, 消耗品費 10,000/10,000/0, 雑費 10,000/10,000/30,000 |
| 会誌出版事業「光学」             |         | 21,655,000 |  |
|                        | 印刷製本費   | 14,976,000 | 会誌   |
|                        | 発送通信費   | 2,895,000  | 発送通信費  |
|                        | 諸経費     | 3,784,000  | 旅費交通費 950,000, 会議費 30,000, 諸謝金 933,000, 賃借料 78,000, 通信運搬費 310,000, 消耗品費 0, 雑費 69,000, 編集委託費 1,236,000, 事務委託費 178,000   |
| 会誌出版事業「OPTICAL REVIEW」 |         | 26,968,000 |  |
|                        | 印刷製本費   | 21,000,000 | 会誌 (校正, 編集事務費, 通信, 運賃を含む)  |
|                        | 発送通信費   | 1,982,000  | 配布経費   |
|                        | 諸経費     | 3,986,000  | 旅費交通費 300,000, 会議費 20,000, 英文校閲料 40,000, 賃借料 30,000, 通信運搬費 200,000, 消耗品費 0, 雑費 38,000, 編集委託費 556,000, 事務委託費 149,000, 販売委託費 2,653,000                                       |
| その他事業費                 |         | 360,000    |  |
|                        | 助成金支出   | 360,000    | 研究グループ 40,000×9 グループ   |
|                        | 名簿作成費   | 0          |  |
| 管理費 (含 幹事会)            |         | 9,023,000  |  |
|                        | 賃借料     | 30,000     |  |
|                        | 印刷製本費   | 200,000    | 諸印刷代, 資料コピー代   |
|                        | 給与手当    | 6,333,000  |  |
|                        | 諸経費     | 1,960,000  | 旅費交通費 1,100,000, 会議費 100,000, 諸謝金 0, 消費税 100,000, 通信運搬費 400,000, 消耗品費 40,000, 雑費 200,000, 臨時雇賃金 0, 振替手数料 20,000  |
|                        | 回収不能引当金 | 500,000    |  |
| 繰入金支出                  |         | 2,105,000  | (他会計への支出額)   |
|                        | 学会事務費   | 2,105,000  | 事務手数料, 配布誌実費 (賛助会員分), 講習会手数料   |
| 予備費                    |         | 200,000    |  |
| 当期支出合計                 |         | 63,701,000 |  |
| 当期収支差額                 |         | 2,154,000  |  |
| 次期繰越収支差額               |         | 12,154,000 |  |